

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成28年12月14日

【四半期会計期間】 第41期第2四半期(自 平成28年8月1日 至 平成28年10月31日)

【会社名】 東建コーポレーション株式会社

【英訳名】 TOKEN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 左右田 稔

【本店の所在の場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第40期 第2四半期 連結累計期間	第41期 第2四半期 連結累計期間	第40期
会計期間		自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日	自 平成28年5月1日 至 平成28年10月31日	自 平成27年5月1日 至 平成28年4月30日
売上高	(百万円)	135,146	142,560	283,731
経常利益	(百万円)	6,160	7,218	13,607
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	3,882	4,785	8,634
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,865	4,868	7,780
純資産額	(百万円)	61,230	68,728	65,141
総資産額	(百万円)	138,737	146,589	149,674
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	288.47	355.66	641.64
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	44.1	46.9	43.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,059	2,684	19,001
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,320	6,262	3,352
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,259	1,301	1,286
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	64,007	82,872	80,594

回次		第40期 第2四半期 連結会計期間	第41期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年8月1日 至 平成27年10月31日	自 平成28年8月1日 至 平成28年10月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	130.28	213.37

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため、記載して
おりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び子会社)が営む事業の内容について、重要な変更は
ありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善がみられる等、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、中国やアジア新興国の景気の下振れや英国のEU離脱問題等、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動による影響等のリスクも存在しており、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

建設業界におきましては、政府による各種住宅取得支援策に加えて、マイナス金利政策により住宅ローン金利の水準が低い状態で推移したこと等により、新設住宅着工戸数は50万5千戸（前年同期比6.8%増）となり、持ち直しの傾向が続きました。また、相続税の税制改正を背景に賃貸住宅建設に対する需要は底堅く、新設貸家着工戸数は22万2千戸（前年同期比12.2%増）となり、堅調に推移しております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は1,425億6千万円（前年同期比5.5%増）となりました。利益面におきましては、営業利益70億3千7百万円（前年同期比18.9%増）、経常利益72億1千8百万円（前年同期比17.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益47億8千5百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

建設事業

建設事業におきましては、前連結会計年度の受注高が増加したことにより、当第2四半期連結累計期間の完成工事高は前年同期と比較して増加しております。利益面におきましては、利益率の高い木造2×4工法の賃貸建物の比率が増加したこと等から、完成工事総利益率には改善がみられました。この結果、建設事業における売上高は681億8千1百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益は72億3千2百万円（前年同期比19.1%増）となりました。

また、当第2四半期累計期間の当社単体における総受注高につきましては、881億4千7百万円（前年同期比17.7%増）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業におきましては、管理物件数の増加に伴うサブリース経営代行システム（一括借り上げ制度）による入居者様からの家賃収入及び管理料収入等の増加により、売上高は前年同期と比較して増加しております。また、賃貸建物の当第2四半期末の入居率は入居仲介促進のための各種施策に積極的に取り組んだことにより96.4%となり、高い入居率を維持しております。この結果、不動産賃貸事業における売上高は729億9千9百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は34億8千9百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

その他

総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業で構成されるその他の事業における売上高は13億7千9百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は1億8百万円（前年同期は営業損失9百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローにつきましては、「現金及び現金同等物の四半期末残高」は前連結会計年度末より22億7千7百万円増加して828億7千2百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにおける主な収入は、「税金等調整前四半期純利益」72億1千8百万円（前年同期比17.2%増）があったものの、「売上債権の増加額」13億9千8百万円（前年同期は10億2千3百万円の減少）、「仕入債務の減少額」46億3千9百万円（前年同期は4億2千6百万円の増加）があったことから、営業活動によるキャッシュ・フローは26億8千4百万円の支出（前年同期は70億5千9百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローにおける主な支出は、「有形固定資産の取得による支出」20億9千4百万円（前年同期比49.2%増）があったものの、「定期預金の純減額」80億2千1百万円（前年同期は4百万円の純増額）があったことから投資活動によるキャッシュ・フローは62億6千2百万円の収入（前年同期は13億2千万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に「配当金の支払額」の支出によるものであり、13億1百万円の支出（前年同期比3.3%増）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、以下の設備の新設を決定しております。

会社名	設備名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
(有)東建 大津通 B	栄タワーヒルズ (名古屋市中区)	不動産賃貸事業	建物・ 構築物	9,762	976	提出会社から の出資金	平成28年10月	平成31年2月

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	53,888,000
計	53,888,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年12月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,472,000	13,472,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数100株
計	13,472,000	13,472,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年8月1日～ 平成28年10月31日		13,472,000		4,800		16

(6)【大株主の状況】

(平成28年10月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)東名商事	名古屋市中区丸の内2丁目1番33号	4,100,000	30.4
左右田 稔	名古屋市昭和区	1,546,400	11.4
ビービーエイチフォー フィデリティロープライズ ストックファンド (プリンシパルオール セクターサブポートフォリオ) (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	690,200	5.1
左右田 善猛	名古屋市昭和区	404,000	2.9
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	239,400	1.7
CBNY - GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行(株))	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	164,390	1.2
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	148,200	1.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	145,600	1.0
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー 505001 (常任代理人 (株)みずほ銀行 決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	120,961	0.8
ザバンクオブニューヨーク メロン 140044 (常任代理人 (株)みずほ銀行 決済営業部)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟)	119,960	0.8
計	-	7,679,111	57.0

(注) 平成27年8月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、エフエムアール エルエルシー (FMR LLC) が平成27年8月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は、以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	米国 02210 マサチューセッツ州 ボストン、サマー・ストリート245	868,700	6.4

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成28年10月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 16,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,207,700	132,077	
単元未満株式	普通株式 247,700		
発行済株式総数	13,472,000		
総株主の議決権		132,077	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄にも、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個を含めております。
2 「単元未満株式」の「株式数」欄には、自己保有株式34株が含まれております。

【自己株式等】

(平成28年10月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東建コーポレーション(株)	名古屋市中区丸の内 二丁目1番33号	16,600		16,600	0.1
計		16,600		16,600	0.1

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年8月1日から平成28年10月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年5月1日から平成28年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	95,856	90,112
受取手形・完成工事未収入金等	3 4,280	5,679
未成工事支出金	1,298	1,374
その他のたな卸資産	1 1,104	1 1,219
その他	2,889	2,890
貸倒引当金	74	70
流動資産合計	105,355	101,206
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	11,672	11,452
土地	15,502	15,814
その他(純額)	4,558	5,902
有形固定資産合計	31,733	33,169
無形固定資産		
投資その他の資産	1,107	1,131
その他	11,760	11,386
貸倒引当金	281	304
投資その他の資産合計	11,478	11,082
固定資産合計	44,319	45,382
資産合計	149,674	146,589
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3 26,468	21,828
未払法人税等	3,039	2,112
賞与引当金	1,641	1,589
役員賞与引当金	90	44
完成工事補償引当金	413	479
その他	26,947	25,908
流動負債合計	58,600	51,963
固定負債		
役員退職慰労引当金	643	661
退職給付に係る負債	2,755	2,840
長期預り保証金	18,345	18,214
その他	4,188	4,180
固定負債合計	25,932	25,897
負債合計	84,533	77,860

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,800	4,800
資本剰余金	16	16
利益剰余金	60,812	64,319
自己株式	88	91
株主資本合計	65,540	69,045
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	289
退職給付に係る調整累計額	663	611
その他の包括利益累計額合計	405	322
非支配株主持分	6	6
純資産合計	65,141	68,728
負債純資産合計	149,674	146,589

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
売上高		
完成工事高	65,540	68,181
兼業事業売上高	69,606	74,378
売上高合計	135,146	142,560
売上原価		
完成工事原価	43,230	44,506
兼業事業売上原価	65,752	70,042
売上原価合計	108,983	114,548
売上総利益		
完成工事総利益	22,309	23,675
兼業事業総利益	3,854	4,335
売上総利益合計	26,163	28,011
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	10,941	10,826
賞与引当金繰入額	1,001	1,009
役員賞与引当金繰入額	32	44
退職給付費用	175	243
役員退職慰労引当金繰入額	15	20
貸倒引当金繰入額	-	19
その他	8,079	8,809
販売費及び一般管理費合計	20,245	20,973
営業利益	5,918	7,037
営業外収益		
受取利息	76	62
保険代理店収入	146	88
その他	78	70
営業外収益合計	300	220
営業外費用		
クレーム損害金	27	11
その他	31	27
営業外費用合計	58	39
経常利益	6,160	7,218
税金等調整前四半期純利益	6,160	7,218
法人税、住民税及び事業税	2,150	2,368
法人税等調整額	127	64
法人税等合計	2,278	2,433
四半期純利益	3,882	4,785
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,882	4,785

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
四半期純利益	3,882	4,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	30
退職給付に係る調整額	11	51
その他の包括利益合計	16	82
四半期包括利益	3,865	4,868
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,865	4,868

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,160	7,218
減価償却費	684	714
賞与引当金の増減額(は減少)	5	52
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	3	66
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	95	136
売上債権の増減額(は増加)	1,023	1,398
その他のたな卸資産の増減額(は増加)	36	114
仕入債務の増減額(は減少)	426	4,639
未成工事受入金の増減額(は減少)	1,385	2,193
未払金の増減額(は減少)	469	1,053
預り金の増減額(は減少)	605	199
未払消費税等の増減額(は減少)	403	2,443
繰延利益の増減額(は減少)	51	113
長期預り保証金の増減額(は減少)	157	130
その他	42	57
小計	10,024	640
利息及び配当金の受取額	85	74
法人税等の支払額	3,050	3,398
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,059	2,684
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	4	8,021
貸付金の回収による収入	441	537
有形固定資産の取得による支出	1,403	2,094
無形固定資産の取得による支出	167	138
差入保証金の差入による支出	78	73
差入保証金の回収による収入	31	17
その他	138	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,320	6,262
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	1,211	1,278
その他	48	22
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,259	1,301
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,479	2,277
現金及び現金同等物の期首残高	59,527	80,594
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,007	82,872

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 その他のたな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
商品及び製品	407百万円	504百万円
仕掛品	110	117
材料貯蔵品	585	597

2 保証債務

施主の金融機関からの借入等に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
23名	59百万円	21名 57百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の前連結会計年度末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
受取手形	47百万円	百万円
支払手形	2,401	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
現金及び預金勘定	84,287百万円	90,112百万円
預入期間が3ヵ月を超える 定期預金	20,280	7,240
現金及び現金同等物	64,007	82,872

(株主資本等関係)

1 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年7月29日 定時株主総会	普通株式	1,211	90	平成27年4月30日	平成27年7月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
 未日後となるもの

該当事項はありません。

2 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年10月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年7月28日 定時株主総会	普通株式	1,278	95	平成28年4月30日	平成28年7月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
 未日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	65,540	68,197	133,737	1,409	135,146		135,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	684	686	1,581	2,268	2,268	
計	65,542	68,881	134,424	2,991	137,415	2,268	135,146
セグメント利益又は損失()	6,074	3,148	9,223	9	9,213	3,295	5,918

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年10月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	68,181	72,999	141,181	1,379	142,560		142,560
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	646	649	1,953	2,603	2,603	
計	68,185	73,645	141,830	3,332	145,163	2,603	142,560
セグメント利益	7,232	3,489	10,721	108	10,830	3,792	7,037

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業を含んでおります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益

(単位：百万円)

項目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	38	11
全社費用	3,256	3,781
合計	3,295	3,792

全社費用は、主に提出会社本社の総務管理部等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年10月31日)
1 株当たり四半期純利益	288円47銭	355円66銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,882	4,785
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,882	4,785
普通株式の期中平均株式数(株)	13,457,211	13,455,523

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年12月13日

東建コーポレーション株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松井夏樹
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	城卓男
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤達治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東建コーポレーション株式会社の平成28年5月1日から平成29年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年8月1日から平成28年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年5月1日から平成28年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東建コーポレーション株式会社及び連結子会社の平成28年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。